

第7回情報活動研究会(INFOMATES)開催報告

下記にて開催された第7回情報活動研究会の概要を報告する。

テーマ:情報担当者の育成

日時:2008年7月16日(水)18:45-20:45

場所:科学技術振興機構 西日本支所

話題提供者:INFOMATES 運営委員 中村 文胤 氏

参加者数:17名(運営委員7名含む)

主催:情報活動研究会(後援:情報科学技術協会;科学技術振興機構 文献情報事業本部)

本研究会は、過去参加者へのアンケートで要望の多かった「情報担当者の育成」をテーマに開催された。

話題提供として「新人の情報担当者を育成する者からみた諸課題」が示され、参加者は新人担当者の着任から1年の間に想定される課題についてディスカッションを行った。ディスカッションは各々の立場・経験からの積極的発言が目立ち、有意義なものとなった。下記に主な意見及び提案を記す。

1. 初期研修

まずは社内研修で情報調査に関する基礎的な理解を深めてもらうことが前提だが、その後は他社との交流を深め、情報を得られる場に積極的に参加させているという育成担当者が多くみられた。またバンダー主催の研修会についても、社内での一定教育後に参加する方が効果的であるという意見に集約された。

2. 育成のための教材

エンドユーザーが自分で調査できる環境・システムが整いつつある今日、新人担当者の教育に使用できるような簡単な調査依頼は減少傾向にある。経験的な理解深化のためには、依頼されたものと同じ内容を新人担当者にも教材として渡し、双方のプロセス及び回答を照合して議論するという意見が出された。また、部署内で調査回答共有フォルダを作成しておき、新人担当者の回答とそのプロセスをいつでも確認できるような仕組みを構築しておいてはどうかという提案があった。

3. 依頼ニーズの把握

情報調査において最も重要なことは依頼ニーズの把握である。例えば公立図書館では常に世相を捉えておくことで、依頼者のニーズを把握しやすくなるという。新人育成においては、依頼者とのコミュニケーションを十分にとることの重要性を認識



させることが必須であるという意見があり、それを実現するための依頼者へのインタビュー方法など、参加者の豊富な経験に基づく有効な手段が紹介された。

4. 著作権

著作権の指導については、①著作権法の解釈方法により必ずしも1つの回答に定まらないこと、②グレーゾーンについては臨機応変な対応策をとることも必要であるということを確認してもらうことが大切であるという見解が示された。

5. 業務への評価

成果が見えにくい調査部門の評価については、①担当者が他部門へアピールできる機会を意識的に作り出しておくこと、②依頼者からの評価を高められるような対応を常に心がけること、③調査部門全体のアピールができるような他部門との共同プロジェクトに積極的に参加すること等を普段より心がけることにより改善されていくのではないかという意見が出された。また、情報調査担当としての資質ならびに知識・技能の向上を図ることを目的とした認定制度「サーチャー試験」を社内において認知している機関もあり、このような認定制度の受験は、指導者の積極的な推奨によるところも大きいという見解が示された。
(「情報活動研究会」運営委員 伊藤 祥)